

# きずなの郷

第10号  
2003 秋

発行 社会福祉法人 厚生協会

平成15年10月10日

## 地域交流ホーム建設起工式

念願だった「地域交流ホーム」の起工式が八月二日わかふじ寮横の建設予定地で行なわれ、工事の安全を祈りました。

式には法人関係者、わかふじ寮利用者の代表、工事関係者や斉藤敏雄町長、湯浅亮町議会議長ら来客を含め約三十名が出席し、佐々木理事長が鍬入れし、玉串を捧げました。

建物は鉄骨造り平屋延べ約五二八平方メートル、総工費は備品を含め約一億円で、日本自転車振興会（競輪）の補助金を主財源に新得町の助成金、残りは自己資金と借入金を用意しています。わかふじ寮と第2わかふじ寮とつながる形で十二月二十五日完成の予定です。



## 共同募金 車輛の寄付

わかふじワークセンターにこのほど北海道共同募金会から赤い羽根共同募金事業のワゴン車一台が配分されました。

厚生協会への配分は昭和五十八年にやすらぎ荘で配分を受け、以来二台目となり、六月末日に納車されました。車はホンダステップワゴン八人乗りで、授産事業の配送、通院、レクリエーションの際など幅広く利用しています。



- ▼地域交流ホーム起工式
- ▼共同募金より車輛寄付

### 特集

- ▼支援費制度における個別支援計画  
(わかふじ寮での取り組み)

### ◆その他の記事

- ・ボランティアスクール
- ・ふれあい盆おどり
- ・きずなの郷祭り
- ・キグレサーカス
- ・各種大会

### ～わかふじ～

- ・木製汽車製作
- ・観光と物産の館
- ・ほくほくテレビに出演

### ～新得やすらぎ荘～

- ・施設内ゲーム大会
- ・外食日
- ・特養のヒーロー・ヒロイン

### ～日帰りサービスセンター～

- ・時間の変更

### ～やすらぎ荘～

- ・日帰り旅行
- ・花火大会

### ～屈足わかふじ園～

- ・日帰り旅行

# 支援費制度における個別支援計画

## わかふじ寮での取り組み

平成15年4月1日から、支援費制度が始まりました。

各市町村の行政によって施設サービスが決定されていた「措置制度」に対し、「支援費制度」は、利用者本人が各サービスを選択し、サービスを提供する事業者（施設等）と契約を結んだ上でサービスの提供を受ける仕組みです。

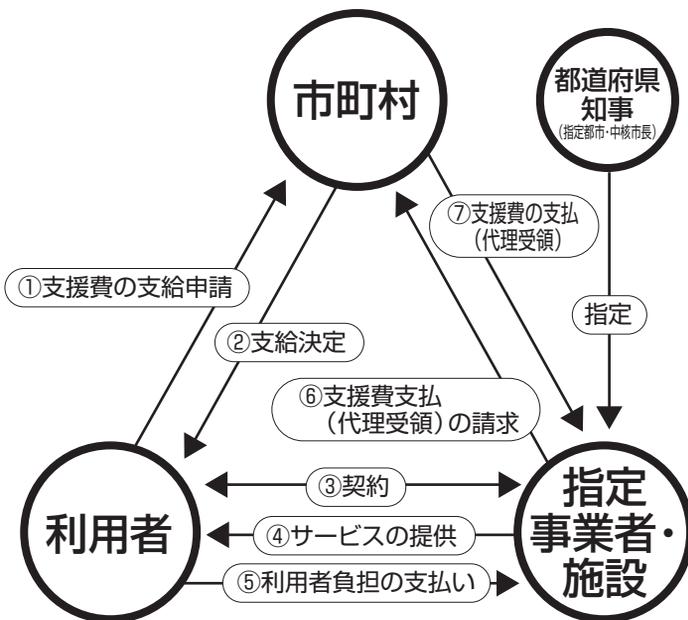
### 厚生協会で支援費制度に移行した施設

- \* 身体障害者授産施設わかふじ寮
- \* 身体障害者通所授産施設わかふじワークセンター
- \* 身体障害者デイサービスセンター屈足わかふじデイサービスセンター
- \* 身体障害者授産施設第2わかふじ寮
- \* 身体障害者療護施設屈足わかふじ園

## 《利用手続きと契約の流れ》

障害者が福祉施設の利用を希望した場合の流れは図の様になります。

### 支援費制度のしくみ



施設を利用する前に住んでいた市役所・町村役場に支援費の支給申請をします。市町村が利用者の状況を勘案し、支援費の支給と利用者負担額を決定します。支給決定された後、利用者本人が、希望する事業者（施設等）と契約を行います。サービスの提供を受けます。利用者は負担金を施設に支払います。施設は市町村に対して支援費支払の請求を行います。（代理受領請求）市町村から施設に支援費が支給されます。（代理受領）

## 《支援費制度における個別支援計画》

措置制度から支援費制度に変更に伴い、国は新たに施設の運営基準を定めました。

運営基準第18条に、指定身体障害者授産施設は、支援の提供にあたり、入所者に対して「個別支援計画」を作成すると共に、施設支援計画に基づき適切に施設支援をしなければならぬと規定しています。

この他に、利用者への計画の説明と同意、支援計画作成会議、計画の見直し（モニタリング）などについて、細かく定められています。

わかふじ寮ではこの基準に基づき、全国社会就労センターの作成したモデルを参考に個別支援計画を作成しました。

## 《個別支援計画が重要視されてきた背景》

第1には、利用者がサービスを選択することにより、施設側はサービスの質を高めることが必然となります。利用者の意向を尊重し、また、施設側の専門性を顕在させる個別支援計画の作成・実施が求められるようになってきました。

第2には、利用者の生活の質（QOL）を高めると同時に、効率的なサービスを提供することにより経費の抑制を図る意味合いからも個別支援計画が活用されます。

第3として、サービスの質を高めるには、業務に対する自己評価・点検が求められます。その際、個別支援計画（書類）を評価基準とすることができます。

第4として、従来からの施設サービスは、厳しい言い方をすれば「お世話をする」「お預かりする」といった視点が強く、利用者の意向をもとに専門性を駆使して支援するという視点が弱いものでした。その課題に対応すべく、個別支援計画が求められるようになっていえます。

## 《わかふじ寮における個別支援計画の取り組み状況》

わかふじ寮では、まず、平成14年3月と7月に行われた北海道身体障害者施設協議会が主催した個別支援計画策定研修会に職員が数名参加し、個別支援計画とはどのようなものであるのかの研修を受けました。この当時は授産施設版のモデルが出ておらず、身体障害者療護施設のモデルを基にした研修会ではありましたが、アセスメント（聞きとり調査）の項目内容が療護と授産ではことなる事はあっても、取り組み方や考え方はほぼ同じということで、療護施設で作成した計画を基に研修を受けました。

同時期には、当施設の桑原施設長が委員となっていた全国社会就労センター協議会のモデル個別支援策定小委員会にて、授産施設版の個別支援計画のモデルを作成することと、施設内にて個別支援計画作成委員会を立ち上げ、療護施設版のモデルを基本に、作業項目等を盛り込んだ授産独自の項目の選定を行いました。

平成14年7月に個別支援計画の内容の説明会を全職員対象に行いましたが、1度、2度の説明では概要の説明で終わってしまい、細かな説明には至りませんでした。その様な事もあり、10月に個別支援計画の作成についての説明会を小グループ単位で実施し、実際の作成へと進みました。

まず、アセスメントの聞き取りを開始することになりましたが、わかふじ寮では作業担当グループ単位でチームを作り作成しました。状況が分かっている項目については、あえて聞き取りを行わず、状況を記載し、時間の短縮化を図りました。

利用者に対して、支援費制度についての説明は事前に行ってはいいたものの、設問内容自体の説明に時間がかかり、普通に行ってもかなりの時間を要する内容になるため、さらに手話や身振り、イラスト等での説明となると、1人1人に長時間を費やすこととなりました。

アセスメントについては、新人の職員が見ても一個人の利用者の状況が分かる様に作成しなければならない為、傾向として障害が重度重複されている方については必然的に「できない」の項目にチェックが入り、その項目について、どうしてできないのか等の職員が気になる点、気づいた事の記入が増える事となりました。又、一番困難だった事は自分の意思表示が十分にできない利用者のニーズを引き出すことでした。

全体のアセスメント作成までに4ヶ月程要しましたが、それでもまだまだ不十分な点は見られています。

次にこのアセスメントを基本にした支援計画書の作成ですが、内容については大きく分けて生活面、作業面と分かれています。授産施設の場合、解決すべきニーズの種類は基本的に作業に対する計画が多くなると思われそうですが、わかふじ寮の場合は生活面でのニーズが多くなりました。

## 《支援の実施について》

授産施設ということで、日中作業をしている事もあり、当初から生活面への支援についてはなかなか進めることができない状態でした。そのような事もあり、一個人としてのニーズに対する支援は別途進める事とし、それでも支援が追いつかないニーズや、重複したニーズについての対応は、土曜日の作業を行わない時間を使って行うこととしました。

支援計画が始まる前から土曜日には作業は行わず、幾つかのグループに分かれて、簡単な学習会や趣味要素が入った活動を継続的に行っていましたが、どうしてもレクリエーション的要素が強くなっていました。

しかし、支援計画が導入されてからは、既存の土曜活動についても、今までの同様に楽しみが持てるレクリエーション的プログラムは継続しつつ、ニーズとして上げられた内容も組み入れて行うことになり、健康や社会ルールについての学習会的内容のプログラムや、整容や居室掃除などを集中して行うプログラム等が新たに組み入れられる事になりました。

実際行って良かった面としては、日々の生活の中で、ある程度自立されている利用者についても新たな発見が見られるなど、これまで自ら思いや希望をあまり表現しなかった利用者に、支援が必要な点が見られる事等がありました。

課題としては、全利用者にならなくとも関わるとしては比較的取り組みやすいものですが、小人数に対するニーズに対しては、支援の時間が取りづらい点や支援が行き届いていない面が現状として見られています。

作業面については、工賃収入を上げてほしい旨のニーズは挙げられましたが、もっと技術が向上して一般就労や地域生活を目指したい旨のニーズは、ほとんど見られませんでした。このようになった要因としては、わかふじ寮に入所されている利用者の年齢が平均して55歳を超えている事、平成12年に通所施設開所に伴い40名が地域に移行していた事、又、ある程度技術を持っている方についても、これまでに社会経験を何度かされている上で、現在の状況を維持したいといった意向を持たれた方が多かったという事がありました。その為、作業目標としては社会復帰を目的とした技術の向上ではなく、むしろ、作業工賃アップを目標としたものになりました。

実際の作業支援についてですが、作業工程について繰り返し説明を行う、又間違っただ点について再度説明を行う等の反復学習が支援の中心となりました。

支援を行っていく中で、「技術の向上を図る」等のニーズがあった場合、評価をするものさしはいったい何なのか等の問題にぶつかり、現状では、そこまでの細かな基準がなく、早急に整備されなければならない点であると思われれます。

## 《記録について》

個別支援計画を実施するにあたり、支援を行った内容や状況、結果について随時記録していくことが必要となりますが、わかふじ寮ではケース記録とは別に支援実施記録を設け記録を行っています。モニタリングを行う上では効率的ではあるのですが、課題や問題も多く出されています。まず、毎日のように行っている支援については毎日記録する必要があるのかという問題があります。簡単なチェックだけでも良いのではという考え方もありますが、同じ職員が継続して長期間関わる事ができるのであれば、状況の変化もチェックの中に記入できますが、別の職員も支援に入る事になれば、チェックだけでは前後の状況の変化が分からないということになります。又、利用者の状況把握についてもそれぞれ職員の受け止め方が様々で、「だいたい出来るようになった」と受け止める職員と、「まだまだできていない」と受け止める職員がいる等と判断が分かれることもあります。

どちらにしても、記録量はかなり膨大となっています。

## 《モニタリングについて》

現在、3ヶ月のモニタリングを終え、次は6ヶ月のモニタリングとなっておりますが、支援計画作成にあたり、契約までには完成しなければならないとの事で慌てて作ったことで、契約までには何とか形にはなったものの、十分な支援会議を行う事もできず、契約をし支援を開始してしまったことで、計画内容がその利用者に適していないものが含まれているなど、支援会議の重要性をつくづく感じさせられています。結果、再度計画の立て直しとなるケースが生じ、利用者へのニーズの確認作業がモニタリングの段階で現れてしまっている現状が見られています。

## 《今後の課題》

個別支援計画をスタートして6ヶ月が経過しようとしていますが、今更ながら一連の計画作成における勉強不足を痛感しています。作成に関しては、アセスメント・計画作成時に時間をかけ、利用者話し合いや確認・理解が十分得られなかったことが原因で、本人のニーズが十分引き出されていない面や、職員の思い込みや主観で判断したニーズも見られました。

計画内容については、生活面、作業面、両方に言える事ですが、ニーズ、目標、援助内容の表現が具体的になっていない為、実際には計画に沿って支援を行う際、何をどのように支援したら良いのかが分からない事がありました。例えば、目標に「意欲的に作業に取り組むことができるようにする」とある場合、「どのように支援するのか」というところが明確になっていないため、支援しづらいという現象がおこります。つまり、具体的に何をどのように支援していくのかということ、明確な計画がなければ支援ができないという事になります。

実際の支援については、日々の行事や授産作業に追われ、計画にそった支援ができていない事もあります。

又、検討会議の重要性についても、浮き彫りとなってきました。利用者から出されたニーズについて個々の支援を行うにあたり、施設として統一された支援の実施が必要となります。検討会議でニーズの集約を行い、方針を決定し、職員の意見を統一した上で、支援を実施していく事が必要不可欠となります。

今後とも、職員会議等で個別支援計画における課題について話し合い、より良い支援が行えるよう、全職員で努力していきたいと考えています。



文責 技術指導員 倉科 孝博  
生活支援員 東 貴志  
生活支援員 樋口比呂美



# 第11回

# サマーボランティアスクール (高校生施設体験学習)

第11回目を迎えたサマーボランティアスクールが8月5日(火)~7日(木)までの3日間、厚生協会の各施設で行なわれました。

今年度は、高校生のみを対象として、地元新得高校だけではなく、近隣の清水、鹿追、芽室高校にも案内し、8名の参加がありました。

「施設の中での生活を通し、障害を持っている方々やお年寄りに対して正しい理解を持ち、様々な人々がそれぞれ目的を持って生活している事を知る」を目的として、体験学習や講演・障害者やお年寄りとのふれあいで福祉やボランティアについて学習して頂きました。

日程等は以下の通りです。

1 日 目	10:30	11:00	12:00	13:00	13:30	15:30	17:00		
	開講式 オリエンテーション	講演1	昼食	講演2	わかふじ寮施設見学 手話の学習会	わかふじ寮 交流会	解散		
2 日 目	9:30	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00			
	集 合	やすらぎ荘施設見学 やすらぎ荘3施設実習	昼食	やすらぎ荘 交流会	障害体験会	解散			
3 日 目	9:30	10:00	12:00	13:00	14:30	13:50	15:30	16:30	17:00
	集 合	わかふじ寮実習	移動	昼食	わかふじ園見学 わかふじ園実習	移動	ディスカ ッション	作 文	閉講式

## 1日目

### 講演1「車椅子の生活体験から」 福嶋孝宏氏 (帯広市)

自らが障害者になった体験談から、帯広市を含め十勝全体の障害者に対する環境の配慮や人々の意識があまりにも他地域と比べると遅れていると感じた事をきっかけに、自ら出来ること(スポーツ)で何かを変えて行こうと決意しました。その後、十勝毎日新聞社の横田氏(スポーツ担当記者)との出会い、十勝の障害者環境・意識改革をしていこうと活動を共にしている内容を話されました。

#### \* 講師のプロフィール \*

1974年6月6日生まれ 帯広市出身

帯広市内の小・中学校を卒業後、帯広工業高校(機械科)を経て帯広松下電工(株)に入社

1998年24歳の時にフリースタイル・スキーモーグルの練習中に事故で脊髄を損傷し、下半身麻痺となる。

その後、会社へ復職し活動(十勝の障害者環境・意識改革をしていこう)を続けています。現在では市内公営住宅にて一人暮らしをして仕事とスポーツに奮闘中です。

### 講演2 第2わかふじ寮 桑原隆俊施設長

第2わかふじ寮桑原施設長より、法人の設立からの経過や聴覚障害とはどのような障害なのか。又、聴覚の重複障害者についての説明を受けました。

### 手話の学習会

聴覚障害者に対する接し方や自己紹介、挨拶、数字等の基本的な手話を学び「小さな世界」の歌詞の手話表現を学びました。

### わかふじ寮交流会

わかふじ寮の利用者とコミュニケーションを図り、聴覚障害者に対する理解を深めていただく為、レクリエーションを行いました。伝言ゲームでは手話を用いて、高校生と施設利用者が混ざり合いながら文章を伝えていくゲームを行い、はじめの文章から最後の文章が違っていたので手話の難しさを体験し、高校生は覚えたての手話を上手に使い、楽しく交流をしていました。

## 2日目

### やすらぎ荘3施設実習

特別養護老人ホームでは、お年寄りのオムツ交換や清拭切り、オムツたたみなどを行い、お年寄りとの接し方を体験しました。高校生には初めての経験で戸惑いながら、懸命に取り組んでいました。又、養護老人ホームでは食事テーブルの掃除やゲートボールを体験し、お年寄りとふれあう中でどの様な暮らしをしているかを実習して頂きました。



### 障害体験会

障害に対する正しい理解をして頂くため、障害体験を行いました。麻痺体験では、模擬体験セットを身体に装着して衣服の着脱を行ったり、ベッドから車椅子への移動の困難さを学習し、高校生から「難しいです」との声が聞かれました。又、車椅子体験では実際に車椅子に乗って段差での移動や自動車でのリフト体験などを行ないました。



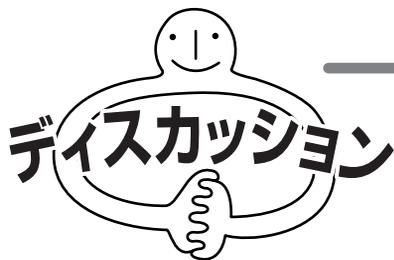
## 3日目

### わかふじ寮実習

パンの製造実習を行い、わかふじ寮の施設利用者の作業内容を理解して頂きました。高校生は自ら2種類のパンの作り方を施設利用者から学び、作業への取り組みを体験しました。

### 屈足わかふじ園実習

レクリエーションを通して「工夫や助け合いにより楽しむことを学ぶ」を目的として、利用者と一緒に昼食後は、療護施設やデイサービスについて説明を受けたうえで、施設見学をし、ボーリングゲームを利用者と一緒に行いました。初めは緊張していた高校生も徐々に打ち解け、最後は笑顔が見られました。



## ディスカッション (意見交換会)・作文

\*サマーボランティアスクール参加者4名の方々の感想です。

新得高校2年(阿保 豊さん)

聴覚障害者は、周りの人から見て障害がわかりづらいということも話してもらいました。僕はこれから障害者を差別しないで何か手助けをしていきたいです。

鹿追高校3年(猪野幸子さん)

障害を持ちながらも元気で明るく、前向きに生きている人達をみて、私も障害のある人に負けずにこれからも色々な事に頑張っていこうと思いました。

清水高校3年(大谷理恵さん)

どの実習も新しい事に挑戦できたので、知識が豊富になれて嬉しかったです。私も夢に向かって、立派な介護士になりたいです。

清水高校3年(有働尚幸さん)

麻痺体験で実際に障害者の実感がわかったような気がします。貴重な体験でした。

## 第22回

# ふれあい盆おどり

8月2日(土)、第22回ふれあい盆おどりがいこいの広場で開催されました。あいにくの雨の中、多くの協力団体の方々に支えられながら大盛況に開かれました。

今年は、午前の準備時より小雨が降ったりやんだりしていた中、テント設営も無事終わる事ができましたが、開会式の1時間前より空模様が怪しくなった為、急遽、やぐらを囲み大きなテントでドームを設営、踊りの方々や当日演奏して頂いた狩勝高原太鼓の方々が雨にぬれない様になりました。動物などに仮装した踊り手もあり、雰囲気盛り上げました。

悪天候の中、雨傘やカッパを着た子供達がおとずれました。やすらぎ荘のお年寄りの方々は、屋内の食堂で、野外と同じ雰囲気を味わえる様にと天井には提灯、壁には紅白の幕が張られ、施設の中での参加となりました。又、模擬店もたこ焼きやウィンナー、焼きそばが人気で各店1時間で無くなる程の大盛況で、募金をして下さる方もおり、今年のふれあい盆おどりも皆が楽しみ、終了する事ができました。



\*動物などに仮装した踊り手もあり、雰囲気を盛り上げた。

## 第4回

# 屈足わかふじ園きずなの郷祭り

8月最後の土曜日、毎年恒例となった屈足わかふじ園きずなの郷祭りが行われました。1年おきに雨天・晴天と繰り返していた天候は、開催前に予想していた通り晴天となり、風の強い日ではありましたが、ほど良い気温の中、気持ちよく参加されたのではないかと思います。今年も総勢74名のボランティアの方々からご協力を頂き、盛大に行うことができました。

ステージでは楽しい参加型のゲームが行われ、利用者の皆さんや来園客の方、わかふじ寮の方など多数の参加者と共に笑いの多いゲーム大会となったり、カラオケクラブから3名の歌を披露して頂いたりとたくさんのイベントを行い、出店の方では相変わらず豚串、鳥串、レッグ等が大盛況で、その他にもおやきや野菜の展示即売会などもありましたが、ほとんどの出店で完売が相次ぐほどの人気ぶりでした。

フィナーレには、新得町・音更町からよさこいチームの踊りを披露して頂き、無事盛大のうちに終わることができました。ボランティアを初め、皆様のご協力ありがとうございました。

# 各種大会

## 第36回全道ろうあ者 夏季体育大会

と き 平成15年6月27日(金)~29日(日)

ところ 旭川市

ゲートボール競技

第3位 わかふじ寮B

{ 笠井・平田(常)・平田(く)・小野  
・年籐・水本 }

パークゴルフ競技

男性の部

準優勝 水本 昇

第3位 平田 常男

第4位 佐治 信也

女性の部

第3位 川口 武子



## 全道ろうあ者夏季体育大会 (やすらぎ荘)

6月27、28日に旭川市で行われた、全道ろうあ者夏季体育大会にゲートボール1チームが参加しました。

27日は旭山動物園へ行き、白クマやペンギンを見て楽しまれていました。

28日は気温が30度になる中、予選リーグ3試合を行いました。接戦の末、予選敗退となりました。選手の皆さんは暑さとの戦いもあり大変だったと思います。

残念な結果に終わってしまいましたが、又、次の大会を目指して練習すると話されています。



## 第41回北海道障害者スポーツ大会

と き 平成15年7月12日(日)

ところ 小樽市

男子100m 1位 金子 弘 21秒90

男子200m 1位 亀田 尚志 31秒41

男子200m 2位 井上 勝 34秒84

男子5000m 2位 高畑美優治 20分25秒

男子ハンドボール投げ 1位 斉藤 拓美 29m89

男子ハンドボール投げ 3位 辻田 貴久 20m19

男子ハンドボール投げ 1位 犬飼 正 26m17

男子やり投げ 1位 須田 有示 17m55

男子砲丸投げ 1位 大山 和広 7m34

女子走り幅跳び 1位 木村 容子 1m97

女子ハンドボール投げA 1位 木村 恵 11m99

女子ハンドボール投げB 1位 本間久美子 13m61

今年度の全国障害者スポーツ大会(静岡県・11月8~10日)に亀田尚志さんと本間久美子さんが昨年の成績をもとに北海道代表選手に選考されました。

## 全道ろうあ老人交流会 (やすらぎ荘)

7月26・27日に定山溪で全道ろうあ老人交流会が行われました。

26日の夜は夕食を兼ねた交流会。久しぶりに友人、知人に会われた方もいて、懐かしそうに話をされていました。

27日はゲートボール大会で、少し肌寒かったのですが、気合いが入っていた為か皆さん元気いっぱい試合に挑みました。午前は2試合行い接戦の末負けてしまいました。午後は1試合だけだったのですが、いつも以上の力が発揮でき、勝つことができました。

結果は1勝2敗だったのですが、大きな大会での1勝は久しぶりという事もあり、帰りのバスの中では大興奮でした。興奮冷めやらぬまま、札幌ドームに行きお土産を買い帰荘しました。



# SL型の木製蒸気機関車の受注

新得町の隣町である鹿追町のフラワーロード推進協議会より、蒸気機関車を模した木製立体花壇の受注・納品を終えました。

このSL型花壇の名は「フラワー号」と名称し、高さ1.7メートル機関車・客車・貨車が各一両連結したイメージで、すべてエゾ松・トド松の道産材で子供が乗って遊べるように作られています。場所は鹿追町の国道274号に面した町民ホール前に設置されています。どうぞ、一度ご覧下さい。



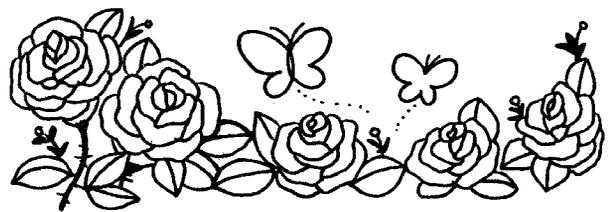
## NHK 「ほくほくテレビ」に わかふじ寮が出演

8月22日(金)の午後4:00頃からNHK「ほくほくテレビ」の中の新得町のコーナーで、わかふじ寮の木工品の紹介を行いました。

放送はサッポロファクトリーから生放送で行われ、わかふじ寮から倉科指導員がかなり緊張した面持ちで出演しました。

放送内容は、「そばの町新得町」をテーマに、そばの花やそばの様々な調理方法の説明の他、観光・林業の町としての宣伝にあわせて、わかふじ寮の木製品が紹介されました。

現在、販売展開を拡大している、「理想の組み立て式そば打ち台」の宣伝を行う目的でしたが、木製クラフトの紹介やわかふじ寮が製作しているお勝手ワゴン・ニレイス・玩具類の宣伝が主になってしまいました。合わせてわかふじ寮で製作している、フロアカーリングについての説明も行われ、出演者の香田晋さんが実技を行い楽しんでいました。



## JR新得駅前の 『観光と物産の館』 今年もオープン

例年オープンしている「観光と物産の館」が7月18日から9月8日までの53日間、道東の窓口であるJR新得駅前にわかふじ寮が製作したログハウス2棟で、新得町の地場製品の販売及びお土産品やわかふじ寮の木製品などの販売店として観光シーズン真最中にオープンしました。この観光と物産の館は新得町観光協会が主催でわかふじ寮が業務委託され行なっています。地場製品の販売はもとより、主に新得町に訪れた方々の観光案内所としても多くの方々に利用されました。

# やすらぎ荘

## 開所記念日帰り旅行

6月25日(水)、十勝川温泉国際ホテル筒井へ日帰り旅行へ行きました。毎年行われている行事ですが利用者の方々は、この日帰り旅行を楽しみにされています。中でもボウリングを楽しみにされていてゲーム中は沢山の笑顔が見られました。ボウリング後は、豪華な昼食を食べ満足されていた様です。お楽しみ会のビンゴゲームでは、様々な大きさの景品選びに迷う姿が見られ、中身を楽しみにされている様子でした。温泉にのんびりつかり楽しみにしていた日帰り旅行は終了しました。

## 花火大会

当初、8月7日に予定されていた花火大会は雨のため12日に、さらに又、13日と延期となり、やっと開催することが出来ました。場所は、施設の敷地内の屋外ゲートボール場での実施ですが、このゲートボール場は、年内にデイサービスセンターの増築のため、移設となり多少狭くなりますが来年も屋外ゲートボール場での花火は出来ますので、安心していただきました。1時間程の花火大会でしたが、屋外に出て手持ち花火をする方、また屋内から屋外での花火を見る方、お部屋から見られる方等さまざまでしたが、配られたお菓子や果物、ジュース、ビール等の飲み物を口にしながら楽しんでいただけたと思っています。

# 新得やすらぎ荘

## 施設内ゲーム大会

6月26日デイホールにて、施設内ゲーム大会を行いました。担当者は、何週間も前から、どの様なゲームで楽しんで頂くかと悩みましたが、当日は、沢山の利用者の方に参加して頂きました。ゲームの内容としては、新聞綱引きでしたが新聞を広げ、利用者同士で楽しんで頂けたので嬉しい光景でした。2つ目は障害物リレーで、3つの内の2つの障害を越えた後は、魚釣りならぬ、おやつ釣りでした。なかなかうまく釣れなかったり、重くて釣り上がらなかったりと、色々な気分になられたと思います。次回の施設内ゲーム大会はお正月に予定しています。担当者は今から何をしようかと頭を悩ませています。

## 外食日

今年も外食日を設け去年と同じ場所ですが2ヶ所に分かれて出かけました。1回目は7月16日に芽室の回転寿司「羽衣亭」に行きました。回転寿司は人気が高く去年同様、希望人数が多く19名の方が参加されました。日頃あまり食欲のない方も大好物のお寿司を思い思いに食べ、積み重ねられたお皿を前に笑顔で「美味しい」と喜んでおられました。2回目は登山学校「レイク・イン」に約15名の方が行きました。レイク・インでは、席に着くと次々に並べられる料理を見て待ちきれず、すぐ箸を付けられる方も見られ、すごい食欲できれいに食べておられました。昼食後は建物の中からでしたが、湖を一望し感動されているようでした。9月に2回目と同じ場所ですが15名の方が行かれる予定です。

## 特養のヒーロー・ヒロイン



小原 武夫さん

第6回目のヒーロー・ヒロインは、いつも明るい小原さんです。名前を呼ぶと笑顔で「はい」と返事をされています。「一万メートル走ることも出来るよ」「柔道5段も持っているよ」等、にこやかに色々話してくれます。歌が好きなようで、時々ホールで大きな声で歌っておられます。拍手をして「上手ですね」というと恥ずかしそうに照れる一面も見られます。そんな小原さんは皆さんの人気者です。



# 国際アビリンピックに 梅坪技術指導員が出場

わかふじ寮の梅坪技術指導員が、4年に一度開催される障害者の技能を競う国際的祭典であるアビリンピックに日本代表選手として出場することが決まりました。

大会は11月23日から29日までインドの首都ニューデリーで行われ、職業技能競技の「家具製作」の部門に出場します。

梅坪指導員は平成14年7月に砂川市で開催された北海道大会で最優秀賞を受賞し、その後、全国大会で金賞を受賞した技術が認められ、国際障害者技能交流協会で選考され、正式決定となりました。

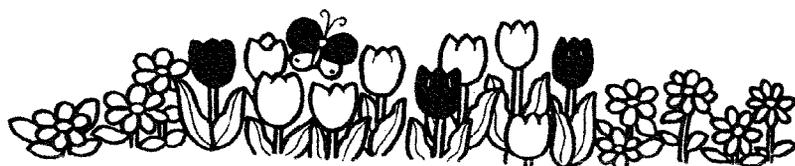
大会では戸棚の製作が予定されています。すでに大会で製作する図面が送られてきていますが、図面の寸法の表示が慣れないインチでの表示だったり、国際障害者技能交流協会でも意味のわからない言葉があったりと、早くも国際大会独特の戸惑う面が出ていますが、本人は是非ともメダルを取りたいと練習を始めています。



## サーカスの見学

帯広市で催されていたキグレNewサーカスに厚生協会3施設が招待を受け、施設利用者合計86名の方々がピエロの玉乗りから始まり、ライトアップされたステージでゾウや犬の曲芸や空中ブランコ、綱渡りなどの珍しいショーを見学してきました。

中でも球の中にオートバイが3台入って乗り回されている様子にすっかり興奮し利用者の方から「楽しかった」「又、見に行きたい」との声が聞かれ楽しいひとときを過ごしました。



## 御寄付・御寄贈ありがとうございました

平成 15 年 6 月 1 日 ~ 平成 15 年 8 月 31 日 (敬称略)

【わかふじ寮】  
 新得町 佐々木 昇  
 マキ鉄工製作所  
 鳥せい新得店  
 田村工業(株)  
 関口地下食堂  
 (有)かなざわ  
 (有)みうら  
 北富青果  
 苦小牧市 牧野武司  
 札幌市 磯部 章  
 羅臼町 大山勝男  
 清水町 しみず中央薬局  
 佐藤陽一  
 帯広市 (株)NTTファシリティーズ  
 北湯沢町 (福)陵雲厚生会  
 北湯沢リハビリセンター  
 日高町 藤沢英明  
 江別市 井上 孝  
 音更町 佐藤フミ子  
 釧路市 渡辺喜美子

【やすらぎ荘】  
 東京都 小山田昌徳  
 神奈川県 鈴木悦子  
 五十嵐里佳

新得町 新得町役場婦人会  
 (有)かなざわ  
 (有)みうら  
 札幌市 近藤良一  
 河原純一  
 北見市 高田カツ子  
 井関 浩  
 井関文子  
 常呂町 柴田芳恵  
 愛知県 白川久夫  
 苦小牧市 千枝克孝  
 帯広市 浜 純夫  
 田宮梅二  
 山口和子  
 音更町 小山八重子  
 標茶町 岩間佳人

【新得やすらぎ荘】  
 砂川市 砂川市婦人ポ  
 ランティア団体  
 新得町 大滝アサ  
 鹿野内善男  
 平 儀一郎  
 佐藤有宏  
 (有)みうら  
 中村清秀

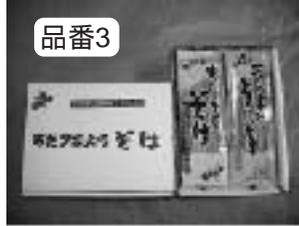
赤平市 北海道光生舎  
 菅野恵美子  
 千葉県 近藤良一  
 札幌市 松田初枝  
 花王販売  
 帯広市 村田和子  
 網走市 井上 孝  
 江別市

【日帰りサービスセンター  
 やすらぎ荘】  
 新得町 新得消費者協会  
 上田八重子  
 佐藤弘恵

【屈足わかふじ園】  
 美唄市 嶋原ヤイ  
 音更町 宮路禮子  
 平木健介  
 中西圭一  
 高 トシ子  
 高橋 敏  
 足寄町 佐々木喜美子  
 幕別町 都田一志  
 帯広市 加藤かよ子  
 早坂信道  
 唯野 展

上士幌町 荒井洋子  
 大樹町 馬場弘子  
 芽室町 高谷富士  
 赤平市 神谷和子  
 尾田憲子  
 光生舎  
 高江智和理  
 本別町 嶋崎真知子  
 清水町 中島 博  
 新得町 小笹キク子  
 桶田和美  
 千葉玄昭  
 佐藤加代子  
 陽気堂  
 東 一子  
 八木ツル子  
 高松 公夫  
 ミートショップ金元  
 橋場和子  
 小川道子  
 木川田郁子

## あたり前のそば



### 「あたりまえのそば」・「あたりまえのとろろそば」 《御歳暮・贈答にお使い下さい》

「お歳暮」の一品にお加え下さい。特別価格にて販売いたします。別紙注文用紙にてFAXまたは、郵送にてお申し付けください。

ご不明な点は  
 わかふじ寮 01566 - 4 - 5001までご連絡ください。  
 お待ちいたしております。

品番	品名	規格	特別価格
1	あたりまえのそば	10把 化粧箱入り	1,500円
2	あたりまえのとろろそば	10把 化粧箱入り	1,700円
3	そば+とろろそばAセット	各5把 化粧箱入り	1,600円
4	そば+とろろそばBセット	各3把+そばつゆ12個 化粧箱入り	1,650円

### お知らせ

社会福祉法人厚生協会では、法人の情報をホームページで公開しています。ご意見やご希望についても電話・Eメールで受け付けていますのでご利用ください。

ホームページアドレス  
<http://www.netbeet.ne.jp/~wakafuji>

メールアドレス  
 wakafuji@netbeet.ne.jp(わかふじ寮)  
 wakafuji@rose.ocn.ne.jp(屈足わかふじ園)

### 編集後記

今年の夏は暑い日が少なく夏ハテすら感じない、何か物足りなく過ぎていきました。農作物の成育も遅れている様では、夏は暑い方が良いでしょう。きずなの郷だよりの編集にあたり、普段活字を使う事が少ない為に、文章を考えるのも一苦労でした。しかし、厚生協会の行事や活動を少しでも理解していただけたと思っております。今後とも、きずなの郷だよりを宜しくご支援ください。  
 第十号広報誌編集委員

〜訂正・及びお詫び〜  
 きずなの郷だより第九号で御寄付・御寄贈欄で共働学会様の誤字がありました。ここに訂正してお詫び申し上げます。